

健康



よもやま話 ①

立ち座りや歩行時に下肢のつけ根が痛む場合、そこにある股関節の病気の可能性があります。最も多い股関節の病気は関節の軟骨がいたみ摩り減る変形性股関節症です（年齢が高い方に多い）。それに対し、股関節の大腿骨頭の骨が死んで（壊死と呼びます）つぶれ痛みを生じる病気が大腿骨頭壊死症です。股関節の骨折や脱臼などの後に生じることがあり、外傷性大腿骨頭壊死症と呼ばれています。外傷がなくてもこの病気になることがあり、特発性大腿骨頭壊死症（特発性とは原因不明ということ）と総称されています。特発性大腿骨頭壊死症は、青年期の働き盛りの方に多いため、社会的にも重要な病気です。原因不明とは言え、約半数はステロイド剤を用いていて、

大腿骨頭壊死症に対する 大腿骨頭回転骨切り術

諏訪赤十字病院 整形外科

小林千益 部長



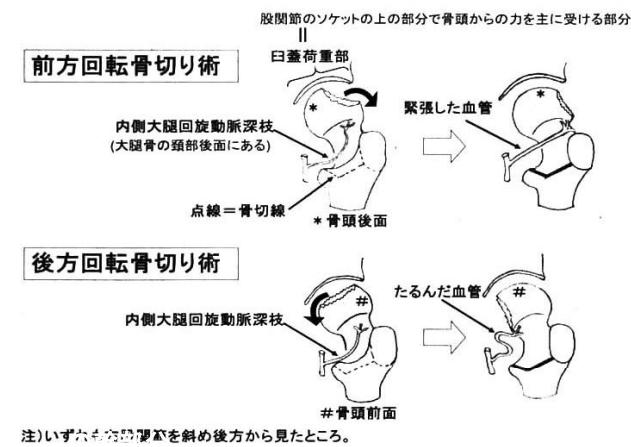
股関節の痛み 手術で軽減

約3割はアルコールをよく飲み、それらがこの病気のかかりやすさと関連があると言われています。大腿骨頭の死んだ骨の量が多いと弱くなり、荷重（体重）を受けやすくなる部分がつぶれることがあります。これは関節内の骨折です。激痛を生じ歩行や日常動作が困難になることがしばしばあります。股関節の骨盤側のソケットの上の部分（臼蓋と呼びます。ここは大腿骨頭からの力を主に受ける部分）で、臼蓋荷重部と呼びます（図）。この臼蓋荷重部が、つぶれた大腿骨頭と摩擦合う状態が続き、軟骨が摩り減り骨同士が擦れ合うようになり、変形性股関節症になります。骨には神経があり擦れ合うたびに痛みを生じ、歩行や日常動作が困難になります。そのような変形性股関節症になることを防ぎ、痛みを軽減するための手術として、大腿骨頭回転骨切り術

があります。これは九州大学の杉岡洋一教授が開発した手術で、1978年に米国の専門誌に発表されました。その後国内外でこの手術が行われましたが成功率が低

く、現在もこの手術を行い、8割以上の成功率を上げている施設は多くありません。信大では、第1例を杉岡教授に行って頂き、その後、それをお手本に、解説書やビデオを参考に手術を行いました。他の手術ではそれほど良い成績を挙げられるのですが、この手術は難しく、初期の成功率は1/4、1/2程度でした。その後、良成績を挙げている先生に、術前計画、手術方法、リハビリ等についてご教授を賜り、8割以上の成功率が得られるようになりました。

く、現在もこの手術を行い、8割以上の成功率を上げている施設は多くありません。信大では、第1例を杉岡教授に行って頂き、その後、それをお手本に、解説書やビデオを参考に手術を行いました。他の手術ではそれほど良い成績を挙げられるのですが、この手術は難しく、初期の成功率は1/4、1/2程度でした。その後、良成績を挙げている先生に、術前計画、手術方法、リハビリ等についてご教授を賜り、8割以上の成功率が得られるようになりました。



注) いずれも臼蓋荷重部を斜め後方から見たところ。

この手術は、図の骨切線で骨を切り、骨頭を回し、臼蓋荷重部と接する骨頭のつぶれていない部分をふやし

す。骨頭をつぶれた部分が上前方にある場合は、骨頭を前に回す前方回転骨切り術を行います（図の上部）。その結果、つぶれていない骨頭の後面（図の水）が上に来て臼蓋荷重部と接するようになります。骨頭をつぶれた部分が上後方にある場合は、骨頭を後ろに回す後方回転骨切り術を行います（図の下部）。その結果、つぶれていない骨頭の前面（図の#）が上に来て臼蓋荷重部と接するようになります。骨頭に必要な血液の大部分を供給する血管（内側大腿回旋動脈深枝）は、大腿骨頸部の後面にあり、前方回転では緊張し、後方回転ではたるみます。そのため、前方回転は90度、後方回転は130度まで回転できます。比較的若い患者さんが多いので、できるだけ人工関節で置換することなく、この手術によって患者さんの股関節の機能を回復し、痛みを軽減し歩行や日常動作を改善したいと願っております。

Ⅱ 第3日曜日掲載

日赤通信

長野日報掲載

健康よもやま話より